

Moshi-mosu

もっと知れば、もっと好きになる！長岡京市の歴史・文化財

Vol. 10
Take Free



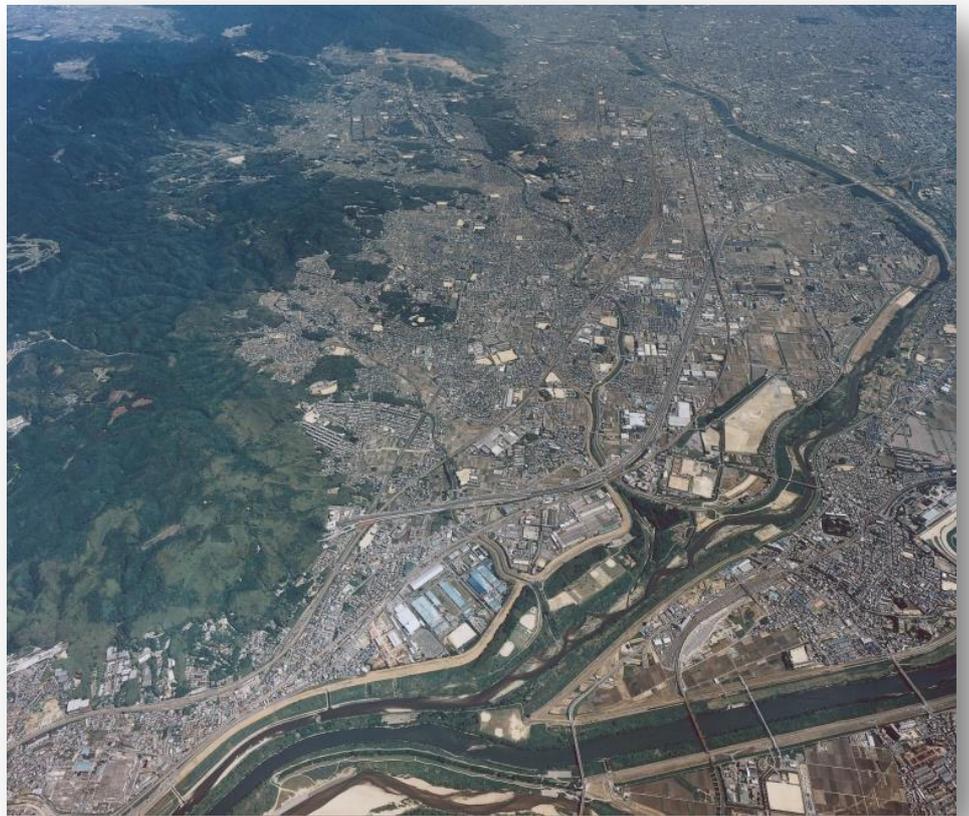
朝食はパン、ごはん？お出かけは車、電車？・・・
私たちの人生は、たいてい常に選択に迫られます。それは、どちらかを選ぶことで、同時にもう一方を捨てよという選択でもあります。自動化や情報化が進み、私たちのくらしは便利になり、選択の幅も増えています。そして、これまでと違った新しい暮らしへの可能性も広がっています。そんな時代に、あえてAなのかBなのか、正解か不正解かを端的に決めるのではなく、矛盾する二つのことをありのままに受け入れることも、もしかすると大切なのかもしれません。秋です。まち歩き季節です。右も左も決めずに、縦横無尽に散策しながら、これまでの歴史もこれからの未来も、どっちも楽しめるまちが、ここにありますよ。

かして暮らしく
長岡京

Is breakfast bread or rice? Is the outing by a car or train? Our life is to choose constantly. We part with the other by choosing one. By automation and computerization, our living becomes convenient, and the width of the choice increases, too. And the possibility to a rich living spreads. In such times, it may be interesting to do not finish deciding on one.

2020年
大河ドラマ

長岡京市ゆかりの戦国武将
「明智光秀」が主役の
『麒麟がくる』放映決定！



応仁の乱と 西岡・勝龍寺城

室町時代の応仁元年(1467)にはじまった応仁の乱の頃、長岡京市を含む桂川以西の地域は、「西岡」と呼ばれていました。当時、このエリアの合戦では、寺院としての勝龍寺が臨時的な砦としてしばしば使われるようになります。また、戦国末期になると、次第に勝龍寺城は、京都をめぐる攻防の要地として、恒常的な城郭へと整備されていきました。

※「西岡」という呼び方は、南北朝時代から使われていました。



ことは、「弟国宮遷都 1500年」！
そして、「長岡京市歴史再発見の年」！

記念イベント「弟国宮遷都1500年記念事業」をはじめ、歴史再発見のための情報を長岡京市のホームページで発信しています。
また、「長岡京市歴史日めくり」も、好評連載中(ほぼ毎週更新)です。
いよいよ記念事業も残りわずか。ぜひ、ご覧ください。

11/3 土祝
バンビオ 3階
メインホール

歴史講演会 「応仁の乱と西岡」

今年のガラシャウィーク歴史講演会は、昨年著書『応仁の乱』が大ヒットした、国際日本文化研究センター助教の呉座勇一さんをお迎えします。

「応仁の乱」は、京都の中で市街戦として勃発しましたが、乱の長期化にともない戦場が京都近郊へと移っていきました。長岡京市を含む西岡地域は重要な戦略拠点の一つで、東西両軍による争奪戦が展開されました。この講演では、応仁の乱における西岡の武士たちのしたたかなサバイバル術をご紹介します。また、応仁の乱後の戦国時代の西岡の歴史、特に細川藤孝（幽斎）についても最後に触れていただきます。



呉座勇一さん

2008年東京大学大学院人文社会系研究科博士課程満期退学、2011年東京大学にて博士（文学）学位を取得。東京大学大学院で人文社会系研究科研究員・総合文化研究科学術研究員、国際日本文化研究センター客員准教授を経て、2016年より現職。専攻は日本中世史。一揆契状・武士・起請文・社会史・史料論・史学史をキーワードに研究に取り組む。主著に『一揆の原理』・『日本中世の領主一揆』・『戦争の日本中世史』がある。2014年には「角川文化振興財団 角川財団学芸賞」を受賞。

【定員】 先着 300 人 ※当日の開場は、午後 1 時を予定しています。

【申込】 事前申込不要 ※ご来場の際は公共の交通機関をご利用ください。

【お問合せ先】 長岡京ガラシャ祭実行委員会事務局（市役所自治振興室内）

TEL/FAX 075-959-1299 メールアドレス : garasha@titan.ocn.ne.jp

◎要約筆記・手話通訳をご希望の場合は、10月24日（水）までに事務局にお伝え下さい。

◎内容や時間は都合により変更となる場合がありますので予めご了承ください。



「応仁の乱」はまさにぐちゃぐちゃの歴史。単純化できない歴史のなかにこそ学びが。

「応仁の乱」と言えば、「人の世むなし応仁の乱」、そんな語呂合わせで年号を覚えた人も多いかと思います。この応仁の乱、ひと言で言ってしまうと、室町幕府の将軍であった足利義政と将軍を補佐する管領の後継者争いとしてきたものです。

足利義政の優柔不断な態度もあって、さまざまな対立が拡大した結果、管領であった細川氏側を東軍、山名氏側を西軍と呼び、全国の大名が京都に集結し大きな戦いはじめられます。この出来事をきっかけに、日本は乱世である戦国時代へと突入していくのです。

京都の西に位置する長岡京市を含む西岡地域で力を持った西岡衆は、細川勝元が率いる東軍に属し、主に西国

から京都へ入る通路の警護にあたり、京都市内の合戦に合流したり幅広く動きまわり、さまざまなかわりを持っていました。しかし、次第に合戦が京都市内から周辺地域にまで広がるようになると西岡も戦いの舞台になりました。

「応仁の乱」では、かかわる人々が、戦いの読みを外し、どんどん裏目に出て、どんどん争いが拡大していきます。でも実は、歴史の事実は、もしかするとこうした単純化できない部分が多いのかもしれませんが。そして、そのなかにこそ、今につながる大きな学びがあるのかもしれませんが。この秋、ぜひ、呉座先生の講演に触れ、歴史を学ぶ醍醐味を改めて感じてみてください。

参加しよう！

Event イベント情報。



この秋は、戦国の西岡に注目！

あいきゅう 展示『相給～細川藤孝書状の「諸入組」をめぐって～』

昔の村には、年貢を納める領主がいましたが、2つ以上の領主が支配する「相給」の村が多くあったのです。

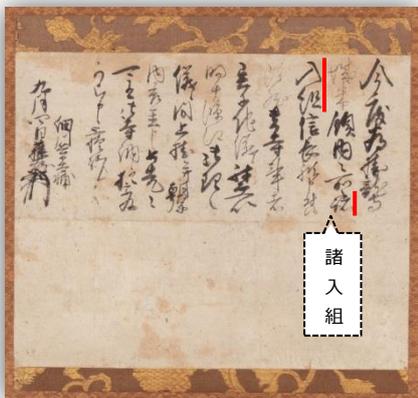
- 日時 〈開催中〉～平成31年1月20日(日)まで
※図書館休館日は除きます
午前10時～午後7時(土曜・日曜・祝日は午後5時まで)
- 場所 長岡京市立図書館1階歴史資料展示コーナー
- 問い合わせ 長岡京市教育委員会生涯学習課 ☎075-954-3557

観覧自由

図書館休館日
は除く

Column

支配が複雑化した戦乱の時代のなかで、村落は団結して共助の自治機能を獲得していった！



年未詳9月4日付細川藤孝書状
(教育委員会所蔵)

昨年、一般にはもちろん、これまで研究者の間でも知られていなかった一通の古文書が発見されました。これは、当時勝龍寺城城主であった細川藤孝が出したもので、関連文書の写しが1点知られるばかりの新出史料でした。この新出史料の細川藤孝書状には、「諸入組」との用語が見られます。「諸入組」とは、所属の異なる土地が混在している状態、またその領域を指していると考えられます。中世の土地制度、荘園公領制のなかで、乙訓地域の小塩荘のように他領に入り組んで荘地が点在する、散在型荘園の存在がよく知られています。加えて、南北朝期以降の戦乱において、たびたび適用された武家権力による半済、すなわち年貢の折半で荘園のみならず、国人・土豪が支配した武家領も分布しました。こうして支配権が錯綜した地域を、「諸入組」と称したようです。

乙訓地域は戦国期には既に支配権が錯綜した状態にありました。「諸入組」によって、当該期の地域社会の問題がより複雑化したことは想像に難くありません。しかし、長く続いた戦乱と多様な領有関係のなかで、村落は村内を団結させ、自治の実力を着実に獲得していったと思われる。近世には、前時代に培われた自治能力を背景に、相給支配を請け負うことで、村落は領主を地域から排除し、より有利な村落運営を実現していったと考えられます。

この日だけ
特別公開！
【入場無料】

限定特別展示「細川藤孝（幽斎）の古文書」

- ▶日時 11月11日(日) 9時～14時
- ▶会場 勝竜寺城公園 管理棟 2F 展示室
- ▶問い合わせ 長岡京市教育委員会生涯学習課 ☎075-955-9534

おとくにのみや

第国宮遷都 1500 年記念スタンプラリー

「長岡京文化財巡り 2018」

多くの皆様のご参加ありがとうございました！

お寄せいただいたご意見 (抜粋・一部集約)

- ▶こういった機会でもないと、長岡京に住んでいてもなかなか周らないと思うので、貴重な機会でした。
- ▶お父さんと自転車で北の方から回った。しんどかったけど楽しかった。またやりたい。
- ▶身近な文化財などに親しみを持てるような感じで良かったです。毎年やってください。



今後のイベントにもご期待ください！

『Moshi-mosu』 vol.10

発行：長岡京市教育委員会生涯学習課 京都府長岡京市天神4丁目1番1号／平成30(2018)年10月